

嘉手納基地におけるヘリ用新格納庫建設計画に対する意見書

令和3年9月末、地方紙にて「米空軍が嘉手納基地内でHH-60救難ヘリの運用整備格納庫を建設する計画がある」ことが報じられた。

記事によると、米空軍が連邦議会へ提出した救難ヘリ運用整備格納庫の建設予算要求書において、既存施設の老朽化や台風対策を理由に、既存9施設を解体して整備した約1万483平方メートルの敷地に救難ヘリ9機を収納する格納庫やフライトシミュレーター訓練室、航空機整備等の支援施設、オフィススペースの新設。また、これまで給油や整備のための駐機場として使用してきた敷地を整備し、6機分の外部駐機場と機体洗浄施設の新設を計画しており、令和4年6月に着工し令和7年5月完成を目指しているとの内容だが、これまで米軍から具体的な内容説明はない。

11月上旬、既存施設付近に重機及びプレハブが配置されている状況を目視確認し沖縄防衛局に照会したところ、米軍から「文化財調査を支援するためのものであり、当該調査はHH-60格納庫の建て替え事業の準備として実施している」との回答があった。

既存施設は住民居住地に近接する国道58号フェンス沿いにあり、これまでも同機によるホバリング訓練やエンジン調整による騒音被害が発生している。外部駐機場が新設され外来機も使用すれば騒音が増大することは明白である。また、機体洗機施設の新設により、洗機時に発生する騒音や洗浄水飛沫が住民居住地へ飛散する被害が懸念されることから、既存施設区域への新格納庫建設は断じて容認できない。

さらに、工事期間中の暫定駐機場所は明らかにされていないが、パパールプ地区や大型駐機場を使用するのではとの疑念や、夜間・深夜早朝の騒音が激化、増大するのではないかと不安の声が高まっていることから、計画中の格納庫建設は住民居住地から離れた場所へ移転を図ることを強く求める。

日米両政府においては平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき早急に対策を講じることを渴望するものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地におけるヘリ用新格納庫建設計画の具体的な内容を早急に明らかにすること。
- 2 新格納庫建設にあたり、住民居住地から離れた場所への移転を図ること。
- 3 工事期間中、パパールプなど住民居住地近傍への駐機を避けること。
- 4 機体洗浄施設からの飛沫飛散被害を発生させないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年12月14日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長
沖縄県知事

嘉手納基地におけるヘリ用新格納庫建設計画に対する決議

令和3年9月末、地方紙にて「米空軍が嘉手納基地内でHH-60救難ヘリの運用整備格納庫を建設する計画がある」ことが報じられた。

記事によると、米空軍が連邦議会へ提出した救難ヘリ運用整備格納庫の建設予算要求書において、既存施設の老朽化や台風対策を理由に、既存9施設を解体して整備した約1万483平方メートルの敷地に救難ヘリ9機を収納する格納庫やフライトシミュレーター訓練室、航空機整備等の支援施設、オフィススペースの新設。また、これまで給油や整備のための駐機場として使用してきた敷地を整備し、6機分の外部駐機場と機体洗浄施設の新設を計画しており、令和4年6月に着工し令和7年5月完成を目指しているとの内容だが、これまで米軍から具体的な内容説明はない。

11月上旬、既存施設付近に重機及びプレハブが配置されている状況を目視確認し沖縄防衛局に照会したところ、米軍から「文化財調査を支援するためのものであり、当該調査はHH-60格納庫の建て替え事業の準備として実施している」との回答があった。

既存施設は住民居住地に近接する国道58号フェンス沿いにあり、これまでも同機によるホバリング訓練やエンジン調整による騒音被害が発生している。外部駐機場が新設され外来機も使用すれば騒音が増大することは明白である。また、機体洗機施設の新設により、洗機時に発生する騒音や洗浄水飛沫が住民居住地へ飛散する被害が懸念されることから、既存施設区域への新格納庫建設は断じて容認できない。

さらに、工事期間中の暫定駐機場所は明らかにされていないが、パパーループ地区や大型駐機場を使用するのではとの疑念や、夜間・深夜早朝の騒音が激化、増大するのではないかと不安の声が高まっていることから、計画中の格納庫建設は住民居住地から離れた場所へ移転を図ることを強く求める。

日米両政府においては平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき早急に対策を講じることを渴望するものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地におけるヘリ用新格納庫建設計画の具体的内容を早急に明らかにすること。
- 2 新格納庫建設にあたり、住民居住地から離れた場所への移転を図ること。
- 3 工事期間中、パパーループなど住民居住地近傍への駐機を避けること。
- 4 機体洗浄施設からの飛沫飛散被害を発生させないこと。

以上、決議する。

令和3年12月14日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官 在沖米国総領事
嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長